

令和7年度小学校教科担任制実施報告書(高学年型)

学校名
府中町立府中北小学校

1 学校の概要

(1) 学校の学級数

	通常学級							特別支援学級	合計
	1年	2年	3年	4年	5年	6年	計		
学級数	2	2	2	2	2	2	12	5	17

2 加配教員が専科指導を行う教科及び週当たりの担当授業時数

(1) 第5、6学年の指定教科

指導教科名	指導学年	指導学級数	1学級当たり時数(週)	授業時数(週)	兼務校での実施
理科	5	2	3	6	
理科	6	2	3	6	
算数	6	2	5	10	

授業時数 計 22 (a)

(2) その他

指導教科等名	指導学年	指導学級数	1学級当たり時数(週)	授業時数(週)	兼務校での実施
				0	

授業時数 計 0 (b)

授業時数 合計 22 (a)+(b)

※加配教員が専科指導を行う教科等、指導学年ごとに記入してください。

3 教科担任制推進教員を配置した授業計画

教科等	国語	書写	社会	算数	理科	音楽	図工	家庭	体育	外国語	道徳	総合	特別活動
週当たり標準授業時数	5		3	5	3	1.4	1.4	1.6	2.6	2	1	2	1
6年 1組 (担任: A)	A	専科	A	推進 専科	推進	専科	A	A	A	A	A	A	A
6年 2組 (担任: B)	B	専科	B	推進 専科	推進	専科	B	B	B	B	B	B	B
週当たり標準授業時数	5		2.9	5	3	1.4	1.4	1.7	2.6	2	1	2	1
5年 1組 (担任: C)	C	専科	C	専科 C	推進	専科	C	C	C	C	C	C	C
5年 2組 (担任: D)	D	専科	D	専科 D	推進	専科	D	D	D	D	D	D	D

4 高学年担任が指導を行う教科等及び週当たり授業時数

学年・学級	児童数(人)	担任	担任する学級以外の授業時数(週当たり)				担任する学級の授業時数(d)	授業時数の合計(c)+(d)
			指導学年・学級	教科等名	時数	時数計(c)		
6年1組	28	A	3年1組	外国語活動	1	5	18.6	23.6
			3年2組	外国語活動	1			
			(6年1組)	算数	3			
6年2組	28	B	4年1組	外国語活動	1	5	18.6	23.6
			4年2組	外国語活動	1			
			(6年2組)	算数	3			
5年1組	25	C				0	23.6	23.6
5年2組	24	D				0	23.6	23.6

5 成果と課題

(①授業の質の向上、②多面的な児童理解、③小・中学校の円滑な接続、④教師の負担軽減、⑤その他)

〈効果のあった取組〉	
①	中学での理科指導経験のある担当が、中学校理科を意図した指導の工夫を行った。
②	担任と授業中の児童の様子等を連携をすることで、児童の学習理解の認識を深め、生徒指導上の課題の共有を行った。
③	教科担任制により、中1ギャップの軽減や小中を見通した指導の工夫を行い、心理的準備ができた。
④	6年生担任が他学年の授業を担当し、担当授業数を軽減することができた。
⑤	中学校の指導経験のある教員が担当することで、専門性の高い授業内容を実施できた。



〈成果〉	
①	中学校理科を見通した専門性の高い理科教育を推進することができた。
②	学年内・学校間の児童理解を向上させることができ、担任との連携もより深いものになった。
③	教科担任制を児童が経験することで、中学入学への心理的準備や進学への不安を解消できた。
④	中・高学年担当の担任教員の授業時間数を軽減することで、負担感を軽減することができた。
⑤	理科の授業を楽しみにしている児童が増え、全国学力状況調査では、県平均+9PTの結果を残せた。6年生理科テストの正答率は約80%であった。

〈課題〉	
①	中学での理科学習へ繋がるような経験的理解の充実をより図ること。
②	担任との情報共有する時間をさらに確保すること。
③	経験的な理科だけではなく、科学的思考ができる理科への関心を深めさせる指導が必要である。
④	中・高学年の担任教員だけではなく、学校全体として授業時数の軽減に努めること。
⑤	一部の学年だけではなく、学校全体でのより質の高い学力の定着を図ること。



〈対策〉	
①	課題発見学習や実験の工夫、探求心を育む授業内容を計画的に進めていく。
②	情報共有の時間をより確保できるように、週時数の見直しを学校全体で検討していく。
③	中学への円滑な接続のための授業内容や単元計画を見直していく。
④	学校全体として、授業時数の軽減等を検討し実施していく。
⑤	担任と担当との連携をさらに深め、学校全体としてより質の高い学力の定着を図るための研修を実施すること。